

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

JPA09-185503

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 09185503 A

(43) Date of publication of application: 15.07.97

(51) Int. Cl

G06F 9/06

(21) Application number: 07342227

(71) Applicant: HITACHI LTD

(22) Date of filing: 28.12.95

(72) Inventor: MORI YASUKO
AKIYAMA KENICHI

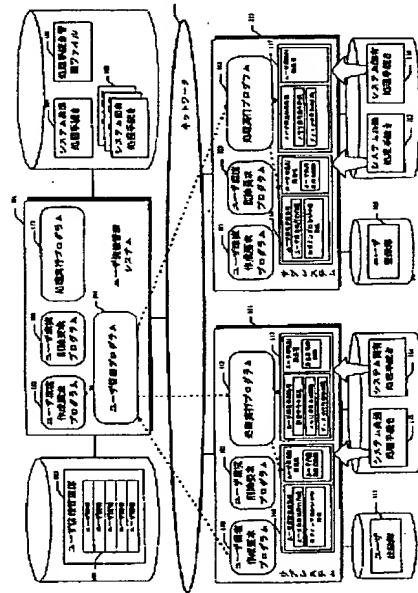
**(54) USER ENVIRONMENT PREPARING AND
ELIMINATING METHOD**

prepared/eliminated.

(57) Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To attain the preparation or elimination of user environment in plural subsystems by connecting the plural subsystems and a user information managing system and executing a program on a certain subsystem.

SOLUTION: The preparation/elimination process of user environment can be defined while being divided into a processing procedure 107 to be executed at all the systems and a processing procedure 108 to be executed at the specified system and these processing procedures 107 and 108 are distributed to respective subsystems 111 and executed on the subsystems 111 so as to deal with different processing for each system as well. Besides, by managing information for setting the environments of respective users in a user information managing list 105, the different environment is prepared for each user. Besides, in order to prepare/ eliminate the user environment by a general user, the certification of user is performed by a user managing program 104 on a user information managing system 101. Only when the user is successfully certified, the user environment is



Best Available Copy

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-185503

(43) 公開日 平成9年(1997)7月15日

(51) Int. Cl. ⁶ G06F 9/06	識別記号 550	府内整理番号 F I G06F 9/06	技術表示箇所 550 J
---	-------------	----------------------------	-----------------

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全9頁)

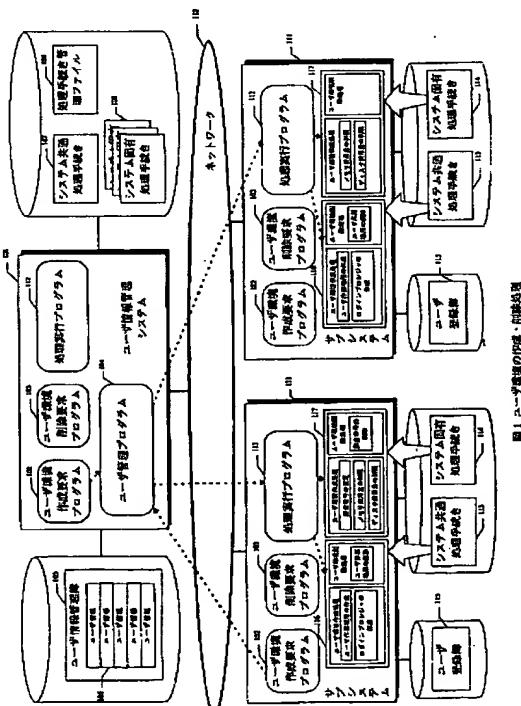
(21) 出願番号 特願平7-342227	(71) 出願人 株式会社日立製作所 東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地
(22) 出願日 平成7年(1995)12月28日	(72) 発明者 森 八寿子 神奈川県横浜市戸塚区戸塚町5030番地 株式会社日立製作所ソフトウェア開発本部内
	(72) 発明者 秋山 憲一 神奈川県横浜市戸塚区戸塚町5030番地 株式会社日立製作所ソフトウェア開発本部内
	(74) 代理人 弁理士 小川 勝男

(54) 【発明の名称】ユーザ環境作成・削除方法

(57) 【要約】

【課題】システムを利用するためのユーザ環境がシステム毎に異なるため、システム管理者は、異なるユーザ環境の作成・削除処理をシステム毎に行なう必要があった。また、ユーザ環境の作成及び削除の処理はシステム管理者にしか権限が与えられていないため、システムを利用する一般ユーザは自分でユーザ環境を作成・削除することができず、システム管理者に依頼する必要があった。

【解決手段】複数のシステムに対して、ユーザ環境の作成と削除を行なう処理手続きと各ユーザの情報を配布することにより、一度に複数のシステムに対するユーザ環境の作成と削除を行なうことを可能とする。また、実行ユーザの認証を行なうことにより、一般ユーザによるユーザ環境の作成と削除も可能とする。本発明により、システム毎に行なう必要があったユーザ環境の作成・削除の作業が軽減され、また、一般ユーザはシステム管理者に依頼しなくとも、任意にユーザ環境を作成・削除できるようになる。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】ユーザ情報管理簿とユーザ環境作成・削除のための処理手続きを有するユーザ情報管理システムであるコンピュータシステム及びユーザ環境の作成・削除が行われるサブシステムである複数のコンピュータシステムがネットワークで接続された構成で、ユーザ環境作成要求処理またはユーザ環境削除要求処理を実行することにより、前記ユーザ情報管理システム上のユーザ管理簿に保持された各ユーザの環境作成のための設定値と前記サブシステムの全てに共通する処理を定義したシステム共通処理手続き及びサブシステム固有の処理を記述したシステム固有処理手続きを前記サブシステムに配布し、前記配布したシステム共通処理手続きとシステム固有処理手続きを環境作成のための設定値をもとに前記サブシステムの各自で実行し、前記サブシステムの各自に対するユーザの環境作成・削除を行なうことを特徴とするユーザ環境作成・削除方法。

【請求項 2】サブシステムを利用するシステム管理者の権限をもたないユーザが前記サブシステムまたはユーザ情報管理システムでユーザ環境作成要求処理またはユーザ環境削除要求処理を実行した場合には、実行ユーザに対してユーザ環境作成・削除するユーザIDのパスワードを入力要求し、入力されたパスワードをユーザ環境作成要求の場合にはユーザ情報管理簿のパスワードと比較し、ユーザ環境削除要求の場合には、ユーザ登録簿のパスワードと比較してパスワードが一致した場合のみユーザが要求したシステムに対してユーザ環境の作成または削除を行なうことを特徴とするユーザ環境作成・削除方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、ネットワーク分散環境におけるユーザの管理に係り、特にユーザの環境作成・削除を行なうユーザ環境作成・削除方法に関する。

【0002】

【従来の技術】システムが多くのユーザからアクセスされるような環境に置かれている場合、不正ユーザの利用からシステムを保護する目的で、システム管理者にのみユーザがシステムを利用するための環境を作成する権限を与えることが多い。この場合、システムの利用を希望するユーザは、システム管理者にユーザ環境の作成を依頼し、システム管理者がそのユーザの環境を作成していた。システムの利用を終了する場合も同様で、ユーザはシステム管理者にユーザ環境の削除を依頼し、依頼されたシステム管理者がユーザ環境の削除を行なうという方式をとっていた。

【0003】近年、ネットワークを介して複数のシステムを接続した大規模なシステムを構築する例が多くなってきているが、システム毎にユーザ環境が異なる場合が多いため、ユーザ環境を作成するシステム管理者の管理

作業が増大してきている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】上記で示した従来の方式には、以下の課題がある。

【0005】(1)システムを利用するためのユーザ環境はシステム毎に異なるため、システム管理者は、システム毎に異なるユーザ環境の作成・削除処理を行なう必要があり、複数のシステムを管理するシステム管理者にとって、ユーザ環境の作成・削除の作業は負担になっていた。

【0006】(2)ユーザ環境の作成及び削除の処理はシステム管理者にしか権限が与えられていないため、システムの利用開始・終了を希望する一般ユーザは、システム管理者に対してユーザ環境の作成または削除を依頼する必要があった。

【0007】

【課題を解決するための手段】上記の課題は、以下の手段によって達成される。

【0008】(1)システム管理者のユーザ環境の作成・

20 削除の作業を軽減するために、ユーザ情報管理システム(101)における一つの操作で、複数のサブシステム(111)のユーザ環境を作成・削除できるようにする。ユーザ環境の作成・削除処理は、全てのシステムで実行される処理手続き(107)と特定のシステムで実行される処理手続き(108)にわけて定義可能とし、この処理手続き(107, 108)を各サブシステム(111)に配布してサブシステム(111)上で実行することにより、システム毎に異なる処理にも対応できるようになる。また、ユーザ情報管理簿(105)に各ユーザの環境設定のための情報を管理することにより、ユーザ毎に異なる環境を作成する。

【0009】(2)一般ユーザによるユーザ環境の作成・削除を可能にするため、ユーザ情報管理システム(101)上のユーザ管理プログラム(104)でユーザの認証を行なう。そして、認証に成功した場合のみ、ユーザのユーザ環境作成・削除を行なう。

【0010】

【発明の実施の形態】本発明の実施の形態を図面により詳細に説明する。

【0011】図1は本発明の実施例であるユーザ環境の作成・削除方法の概念図である。

40 【0012】ユーザ情報管理システム(101)とサブシステム(111)が、ネットワーク(110)で接続されている。

【0013】ユーザ情報管理システム(101)には、ユーザの環境設定に必要な情報をユーザごと定義したユーザ情報管理簿(105)、全てのサブシステムにおけるユーザ環境作成・削除処理を定義したシステム共通処理手続き(107)と、特定のサブシステム(111)のユーザ環境作成・削除処理を定義したシステム固有処理手続き(108)、システム固有処理手続き(108)の配布先を定義した処理手続き管理ファイル(109)、及びユーザ情報管理簿(105)及

び処理手続き(107, 108)を管理しユーザ環境作成要求プログラム(102)とユーザ環境削除要求プログラム(103)からの要求によって処理実行プログラム(112)に対してユーザ環境の削除または作成を要求するユーザ管理プログラム(104)が置かれている。

【0014】サブシステム(111)及びユーザ情報管理システム(101)には、ユーザ環境の作成をユーザ管理プログラム(104)に対して要求するユーザ環境作成要求プログラム(102)、ユーザ環境の削除をユーザ管理プログラム(104)に対して要求するユーザ環境削除要求プログラム(103)、ユーザ情報管理システム(101)から配布されたシステム共通処理手続き(107)とシステム固有処理手続き(108)を実行しサブシステム(11)における環境の作成及び削除処理を行なう処理実行プログラム(112)、ユーザがログインする時の認証に使われるパスワードが定義されているユーザ登録簿(115)が置かれている。ユーザ登録簿(115)は、ユーザ環境削除の時のユーザ認証の際に使用される。

【0015】ユーザ環境作成処理は、次のように行われる。

【0016】ユーザ情報管理システム(101)またはサブシステム(111)上で、システム管理者または一般ユーザが、ユーザIDとシステム名を指定してユーザ環境作成要求プログラム(102)を実行する。ユーザ環境作成要求プログラム(102)が一般ユーザによって実行された場合(501)、実行ユーザに対して指定したユーザIDのパスワードの入力を要求し(502)、ユーザIDと入力されたパスワードを含むユーザ認証要求パケットを作成して(503)、ユーザ情報管理システム(101)のユーザ管理プログラム(104)に送信する(504)。実行ユーザがシステム管理者の場合は、実行ユーザの認証を行なう必要がないため、この処理は行なわない(501)。

【0017】ユーザ環境作成要求プログラム(102)からユーザ認証パケットを受信した(703)ユーザ管理プログラム(104)は、ユーザ認証パケット中のユーザIDがユーザ情報管理簿(105)にあり(704)、パケット中のパスワードとユーザ情報管理簿(105)から取得した(705)パスワード(202)を比較して(706)、一致する場合(707)はOK(708)、そうでない場合はNG(709)を、ユーザ環境作成要求プログラム(102)に返す(710)。

【0018】ユーザ管理プログラム(104)からユーザ認証の結果を受信した(506)ユーザ環境作成要求プログラム(102)は、ユーザ管理プログラム(104)からNGが返された場合(507)、エラーメッセージを表示して(513)処理を終了する(514)。

【0019】ユーザ環境作成要求プログラム(102)の実行ユーザが、システム管理者または認証に成功した一般ユーザの場合(501, 507)、ユーザ環境作成要求プログラム(102)はユーザIDとユーザ環境の作成を要求するシステム名が入ったユーザ環境作成要求パケットを作成し(5

08)、ユーザ管理プログラム(104)に送信する(509)。

【0020】ユーザ環境作成要求パケットを受信した(711)ユーザ管理プログラム(104)は、要求されたサブシステム(111)の処理実行プログラム(112)に対して、システム共通処理手続き(107)とシステム固有手続き(108)を送信する(714)。いくつかあるシステム固有処理手続き(108)のうちどのサブシステム(111)にどのシステム固有処理手続き(108)を配布するかは、処理手続き管理ファイル(109)の定義に従う(713)。

10 【0021】例えば、図3の処理手続き管理ファイルではシステム固有処理手続きA(319)は、システムAとシステムB(320)に配布される。

【0022】処理実行プログラム(112)は、受信した処理手続きをサブシステム(111)のディスク上(113, 114)に置き(815, 816)、結果を送信する(810)。

【0023】処理手続きの送付に成功した場合(716)、ユーザ管理プログラム(104)は指定されたユーザIDの環境作成のための設定値(122)をユーザ情報管理簿(105)から取得し(716)、ユーザ環境作成パケットの形にして(719)処理実行プログラム(112)に対して送信する(721)。

【0024】ユーザ環境作成パケットを受信した(811)処理実行プログラム(112)は、環境作成のための設定値(203)をメモリ上に設定し(812)、既に配布されているシステム共通処理手続き(113)とシステム固有処理手続き(114)に定義されている処理をメモリ上に設定された値を用いて実行する(813, 814)。図1に示す例では、システム共通処理手続き(116)でユーザ作業場所の割り当てとログインプロシージャの作成を行い、システム固有処理手続き(117)で各サブシステム毎に設定方法が異なる課金番号の設定やメモリ使用量の制限及びディスク使用量の制限等を行っている。

【0025】ユーザ情報管理システム(101)またはサブシステム(111)上で、システム管理者または一般ユーザが、ユーザ環境削除要求プログラム(103)にユーザ環境を削除するユーザIDとシステム名を指定して実行する。

【0026】ユーザ環境削除要求プログラム(103)が一般ユーザによって実行された場合(601)、実行ユーザに対して指定したユーザIDのパスワードの入力を要求し(602)、指定ユーザIDと入力パスワードが入ったユーザ認証要求パケットを作成して(603)、指定サブシステム(111)の処理実行プログラム(112)に送信する(609)。

【0027】実行ユーザがシステム管理者の場合は、実行ユーザの認証を行なう必要がないため、この処理は行なわない(601)。

【0028】処理実行プログラム(112)は、受信したユーザ認証パケット(803)中のユーザIDがユーザ登録簿(115)にあり(804)、パケット中のパスワードとユーザ登録簿(115)から取得した(805)パスワード(402)が一致する場合(806, 807)はOK(808)、そうでない場合はNG(809)

を、ユーザ環境削除要求プログラム(103)に返す(810)。

【0029】ユーザ環境削除要求プログラム(103)は、処理実行プログラム(112)からNGが返された場合(607)、エラーメッセージを表示して(613)、処理を終了する(614)。

【0030】ユーザ環境削除要求プログラム(103)の実行ユーザが、システム管理者または認証に成功した一般ユーザの場合、ユーザ環境削除要求プログラム(103)は、ユーザIDとユーザ環境の削除を要求するシステム名が入ったユーザ環境削除要求パケットを作成し(608)、ユーザ管理プログラム(104)に対して送信する(609)。

【0031】ユーザ環境削除要求パケットを受信した(711)ユーザ管理プログラム(104)は、要求されたサブシステム(111)の処理実行プログラム(112)に対して、システム共通処理手続き(107)とシステム固有手続き(108)を送信する(714)。いくつかあるシステム固有処理手続き(108)のうちどのサブシステム(111)にどのシステム固有処理手続き(108)を配布するかは、処理手続き管理ファイル(109)の設定に従う(713)。

【0032】処理実行プログラム(112)は、受信した処理手続き(107, 108)をサブシステム(111)上のディスクに置き(816)、結果を送信する(810)。

【0033】処理手続きの送付に成功した場合(716)、ユーザ管理プログラム(104)はユーザ情報管理簿(105)から環境作成のための設定値(203)を取得し(717)、ユーザIDをユーザ環境削除パケットの形にして(720)送信する(721)。

【0034】ユーザ環境削除パケットを受信した(811)処理実行プログラム(112)は、パケット中の環境作成のための設定値(203)をメモリ上に設定してから(812)、既に配布されているシステム共通処理手続き(113)とシステム固有処理手続き(114)に定義された処理をメモリ上に設定された値を用いて実行する(813, 814)。図1に示す例では、システム共通処理手続き(116)でユーザ作業場所の削除を行い、システム固有処理手続き(117)では課金番号の削除を行っている。

【0035】

【発明の効果】本発明によれば、ネットワークで複数の

サブシステムとユーザ情報管理システムが接続された構成で、あるサブシステム上でプログラムを実行することにより、ネットワークを介して複数のサブシステムにおけるユーザ環境を作成または削除することができる。また、プログラム実行者の認証機能により、システム管理者でない一般の利用者によるユーザ環境の作成・削除も可能になる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施例であるユーザ環境の作成・削除方法の概念図である。

【図2】各ユーザの情報を管理するユーザ情報管理簿を説明するための図である。

【図3】処理手続きをどのシステムに配布するかを管理する処理手続き管理ファイルを説明するための図である。

【図4】ユーザがログインする時の認証に使用されるユーザ登録簿を説明するための図である。

【図5】ユーザ環境作成要求プログラムの処理を示すフローチャートである。

【図6】ユーザ環境削除要求プログラムの処理を示すフローチャートである。

【図7】ユーザ管理プログラムの処理を示すフローチャートである。

【図8】処理実行プログラムの処理を示すフローチャートである。

【符号の説明】

101…ユーザ情報管理システム

102…ユーザ環境作成要求プログラム

103…ユーザ環境削除要求プログラム

301…ユーザ情報管理簿

107…システム共通処理手続き

108…システム固有処理手続き

110…ネットワーク

111…ユーザ環境の作成・削除が行われるサブシステム

113…システム共通処理手続き

114…システム固有処理手続き

115…ユーザ登録簿

【図2】

ユーザ情報管理簿		
ユーザA	パスワード	環境作成のための設定値
ユーザB	パスワード	環境作成のための設定値
ユーザC	パスワード	環境作成のための設定値
ユーザD	パスワード	環境作成のための設定値
ユーザE	パスワード	環境作成のための設定値
ユーザF	パスワード	環境作成のための設定値

図2 ユーザ情報管理簿の構成

【図3】

処理手続き管理ファイル	
システム固有処理手続き A	システム A, システム B
システム固有処理手続き B	システム C
システム固有処理手続き C	システム D

図3 処理手続き管理ファイルの内容

【図1】

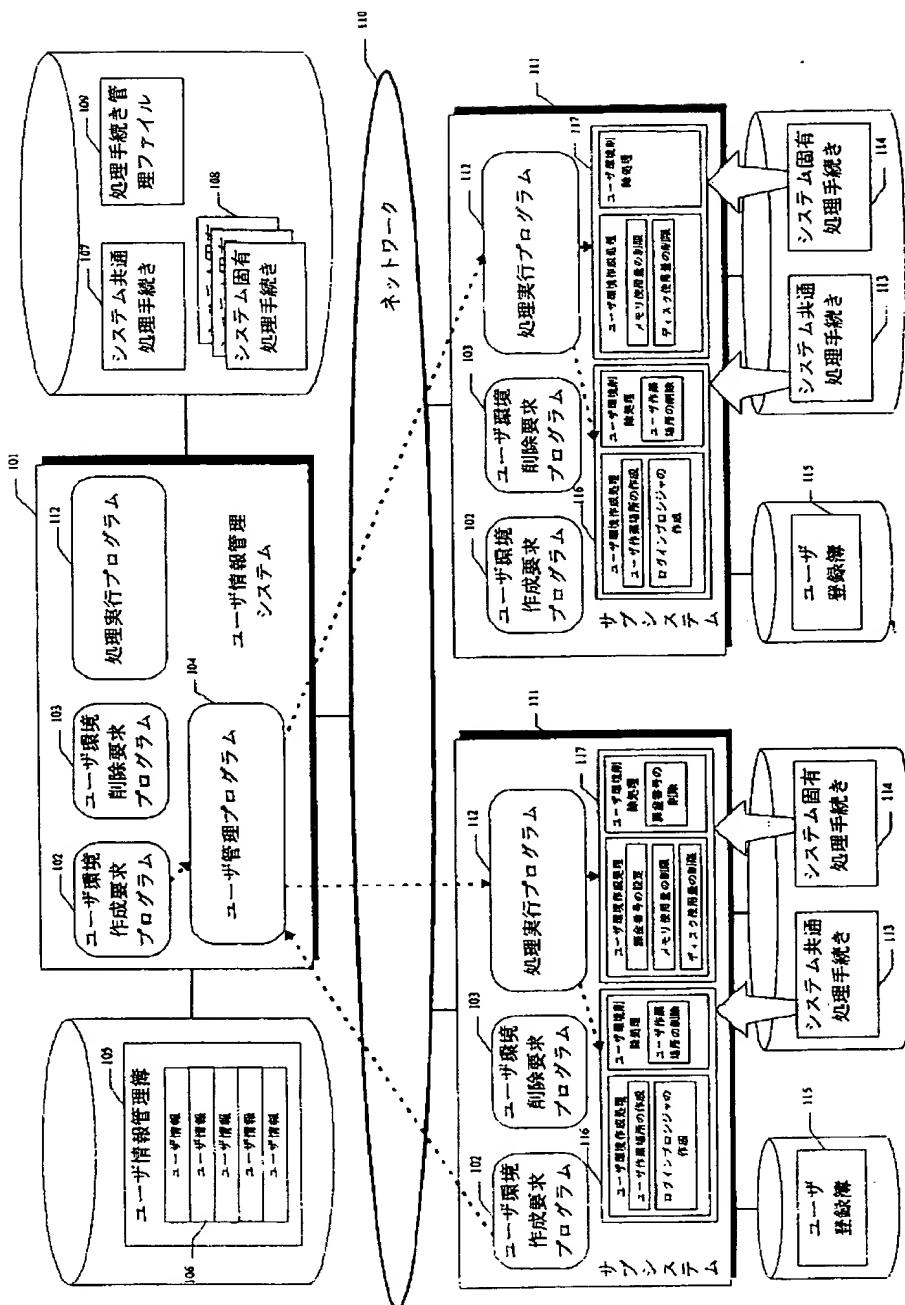


図1 ユーザ環境の作成・削除処理

【図4】

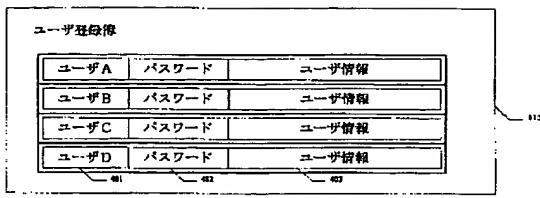


図4 ユーザ登録簿の構成

【図5】

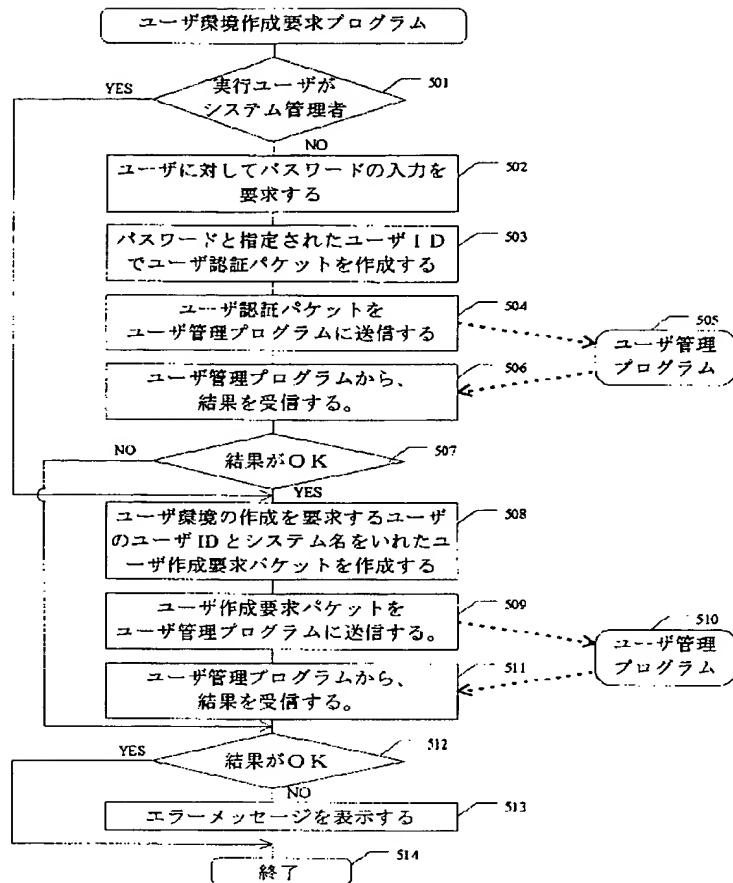


図5 ユーザ環境作成要求プログラムの処理

【図6】

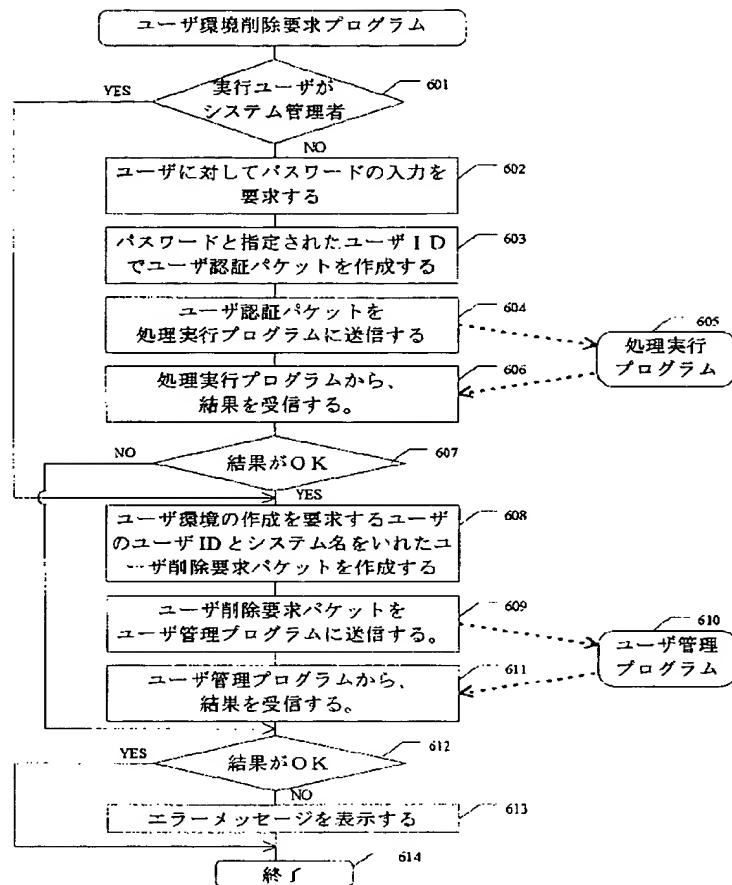


図6 ユーザ環境削除要求プログラムの処理

【図7】

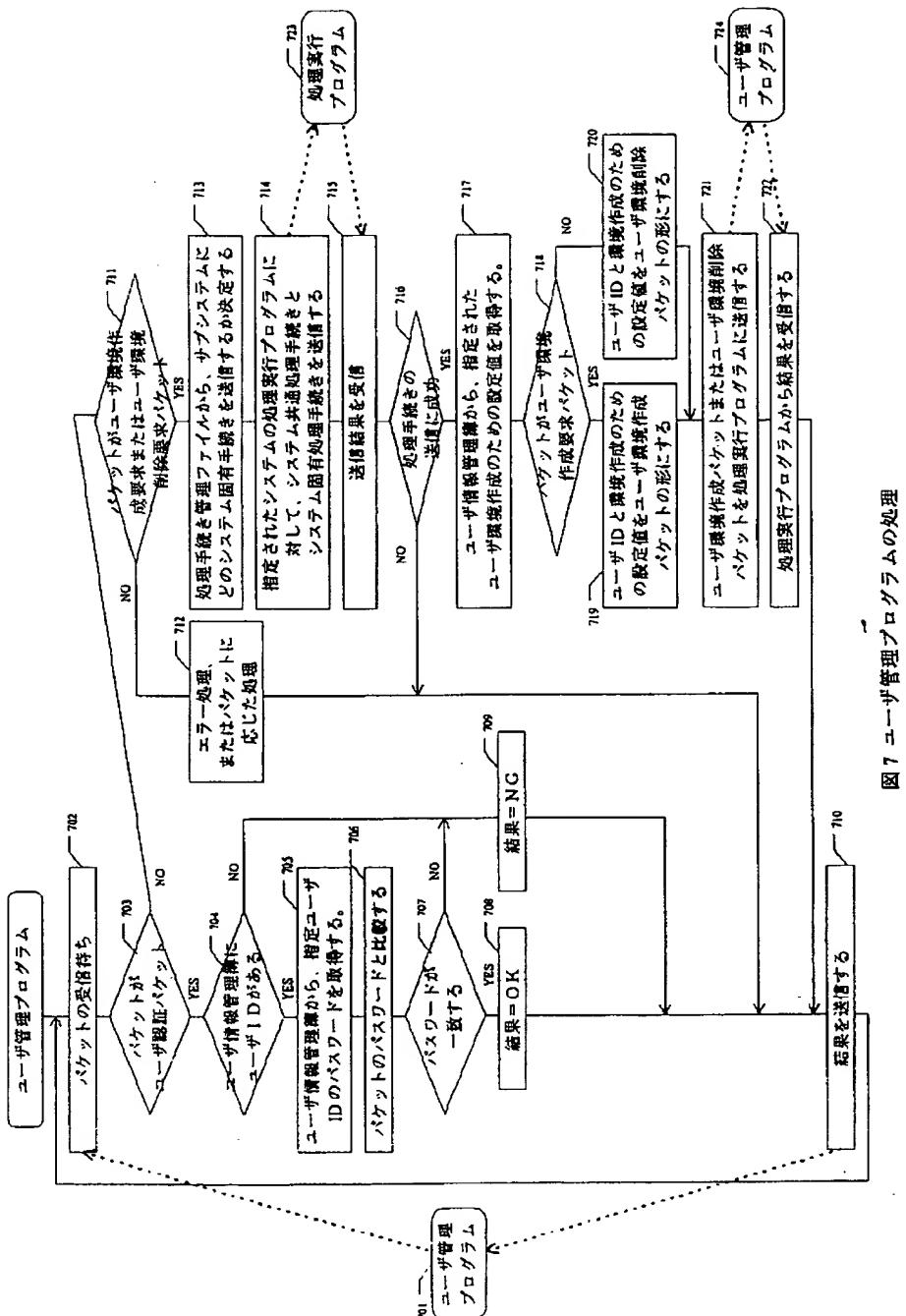


図7 ユーザ管理プログラムの処理

【图8】

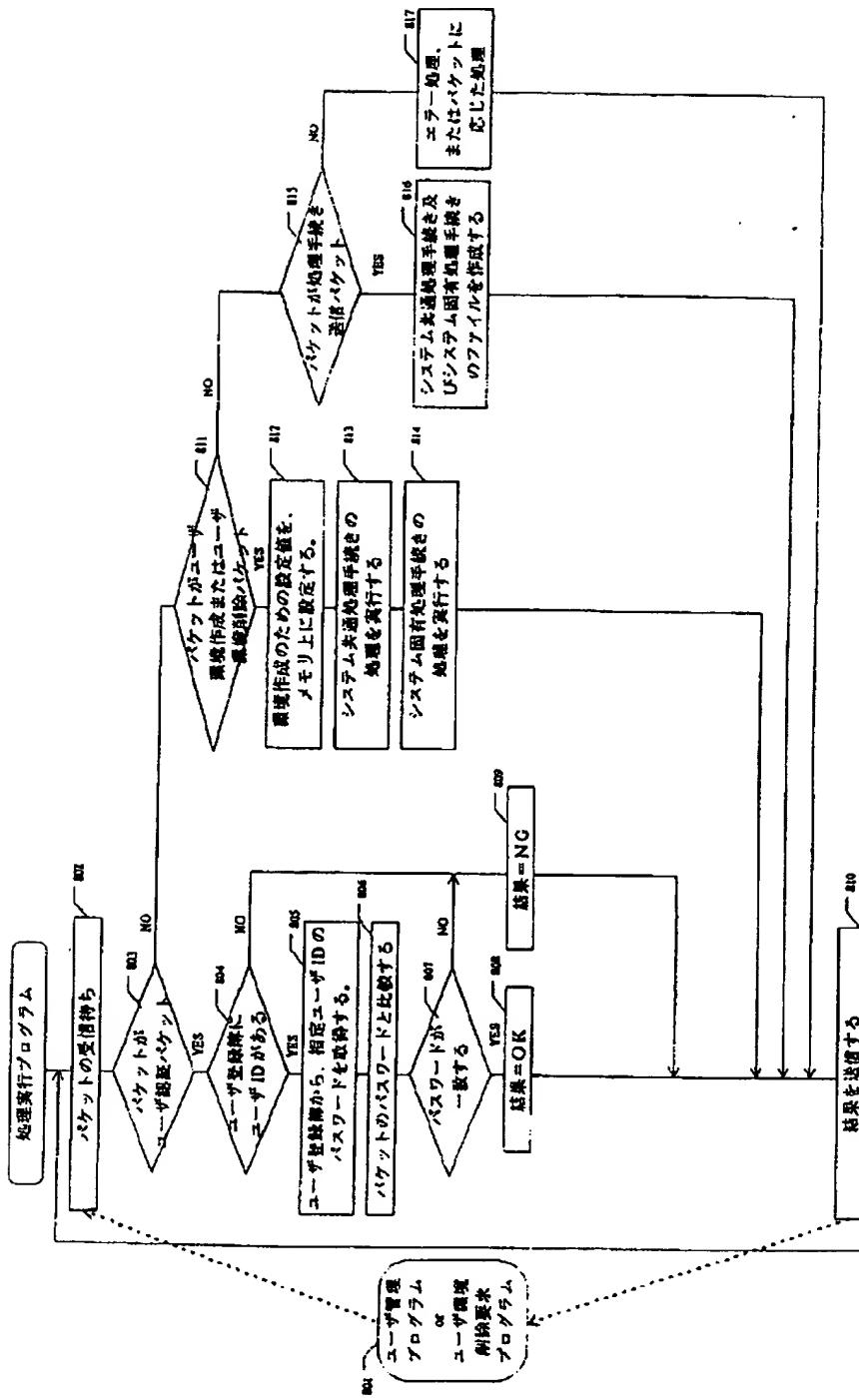


図8 処理実行プログラムの処理